

VBAプログラミングの基礎

Visual Basic for Applications (VBA) は、マイクロソフト社のExcel、WordといったOfficeアプリケーションで利用できる拡張されたBASIC言語です。

VBAのプログラムを作成するための環境、ツールとしては、Visual Basic Editor (VBE) があります。VBEは、Officeアプリケーションに搭載されており、手軽に利用できます。

マイクロソフト社は、Windowsのソフトウェア開発ツールとしてVisual Studioを提供してきましたが、VBEはVisual Studio 6.0に含まれるVisual Basic 6.0と遜色ない機能をもっています。とりわけ、Office 2000 Developerでは、Visual Basic 6.0とほとんど同等の機能を提供しています。

ただ残念なことに、VBEで作成したVBAプログラムは、ExcelなどのOffice上でしか利用できません。そのため、EXEファイルのように、Windows上で単独で機能するプログラムを作成することはできません。

しかし、Excelの機能を利用するようなプログラム、例えば、Excelのシートを使ってデータ进行处理するようなものや、難しい計算にExcelの関数を利用するようなものなどは、Excelから違和感なくプログラムが利用でき、そのメリットを実感できます。

1.1 Visual Basic Editorの概要

1.1.1 VBEを起動する

VBEを起動するには、図1.1のように [ツール] メニューから [マクロ] - [Visual Basic Editor] を選択します。すると、図1.2のようなウィンドウが開きます。

ウィンドウは枠に区切られていて、プロジェクト、プロパティ、イミディエイトと書かれています (図1.2に示したものは一般的な例で、使用状況によって異なる構成になっていることもある)。

この区切られた部分はドッキング可能なウィンドウで、VBEのウィンドウの周辺に貼り付くこと

図1.1 [ツール]メニューから[マクロ]-[Visual Basic Editor]を選択

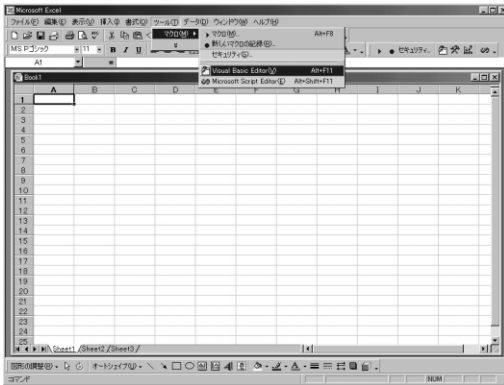
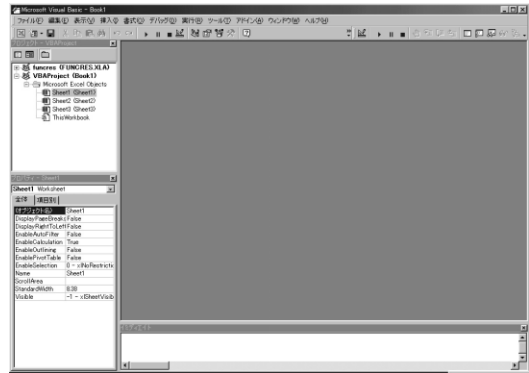


図1.2 VBEが開いた状態



ができるウィンドウです。このようなウィンドウにどのようなものがあるかは、図1.3のように[表示]メニューを開くと確認できます。

図1.3を見ると、上からイミディエイトウィンドウ、ローカルウィンドウ、ウォッチウィンドウ、1つ飛ばして、プロジェクトエクスプローラ、プロパティウィンドウという項目があります。図1.3は、この中のプロジェクトエクスプローラ、プロパティウィンドウ、イミディエイトウィンドウが表示されています。

ウィンドウの操作

ウィンドウを確認するために、また使いやすく変更できることを試すために、ウィンドウの扱い方について説明します。

はじめに、プロジェクトエクスプローラを非ドッキング状態にしてみます。簡単な方法は、プロジェクトエクスプローラのタイトルバーの部分でダブルクリックする方法です。

図1.3 [表示]メニューからウィンドウを確認

